

北のとびら

vol. 98

平成25年11月



HOKKAIDO
ARTS FOUNDATION

特集

コンテンポラリーダンス

柳本雅寛に聞く！

踊る、創る、観る、
コンテンポラリーダンスの魅力

この人に注目

平成26年度 HAFアーティスト

街歩きアート

ギャラリーや創造の空間となった
街の記憶を残す建物たち

[十勝エリア]

フォト・エッセイ

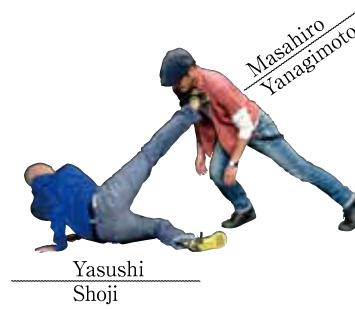
いしいしんじ

表紙作家の紹介



特集 コンテンポラリーダンス

柳本雅寛に聞く! 踊る、創る、観る、 コンテンポラリーダンスの魅力



「音楽に乗って身体を動かす」。ダンスはいまや、そこに留まってはいません。

作品によっては会話もあり、映像もあり、コントもあり、

劇場を飛び出してのスペースジャックもあり。

それぞれ個性的なのに、変化が早く、カテゴライズは難しい。

振付家・ダンサーである柳本雅寛さんに、
コンテンポラリーダンスの魅力と柳本さんの創作活動について伺いました。

出会い

僕がコンテンポラリーダンスに

出会ったのは、21歳のとき。友人のダンサーを訪ねてドイツに行き、そこでモダンダンスを見ました。

クラシックバレエにはない身体表現、その自由さに驚いたし、ダン

サーそれが「誰にも真似できない個」を表現していることに感動しました。様式美や肉体美に囚われない魅力や美しさが、コンテンポラリーダンスにはあります。

当時、僕は大阪でバレエダンサーとして活動していて、クラシックのスタイルの限界を感じていました。また、若かったので「もつと何かできるはずだ」という気持ちもあった。ドイツ滞在中、友人が所属するカンパニーに契約をオファーされ、そこから僕のキャリアはモダンダンサー、コンテンポラリーへとシフトしました。

メソッド コンタクト

海外で8年間、プロのダンサーとして多様な舞踊団と契約。多く

の振付家の作品創作に関わったことは、僕の財産です。特に、オランダのカンパニーで身体接触の多い作品を踊ったことが、今、僕が取り組んでいる「コンタクト」のメソッドにつながっています。

コンタクトは他者との身体的接触を多用する動き。力をかけたりそれをいなししたり、武道のような感じもありますね。踊っていて、そこで起こる相手の表情、発声、息づかいが毎回変わる、そのリアルさがおもしろい。

帰国後、スウェーデンで踊っている大植真太郎、北海道出身の平原慎太郎と「C Company」というユニットを作っていますが、大植のスタイルとのリンクもあって、今はコンタクトが僕のスタイルの核になっています。

コンタクト・インプロビゼーション(即興)という表現やトレーニングがありますが、僕の作品では振付が決まっています。「即興に見える」と言われると「してやつたり」ですね。そこにリアルさがあるということですから。

僕の考えるコンタクトで大切にしているのは、床との関係性です。



ダンスには「上へ、浮き上がる」というタイプもありますが、僕は「床にしっかりと立つ人間のダンス」のほうが素敵だと感じる。床は絶対に裏切らないパートナー、その床にどう立つか、どう力をかけるか、床とのコンタクトを大事にしています。

踊る創る

大きなプロジェクトで大勢のダンサーが踊る企画もありますが、僕は世界観を共有できる仲間と、たくさん会話をする中で作品を作っていくのが好きです。「C/Ompany」の他、「+81」というユニットも作っていて、この二つは共通点もあるけど、少し違う。作品作りはメンバー間でイーブンですが、最終決定はリーダー。だから、僕がリーダーである「+81」では、僕の大好きなエンターテイメントが入ってきます。これは「C/Ompany」にはない要素です。僕は滑稽な悲劇や哀愁漂う喜劇、チャップリンの映画のような世界が好き。作品では、コントのようでもドラマがある、かと思えば

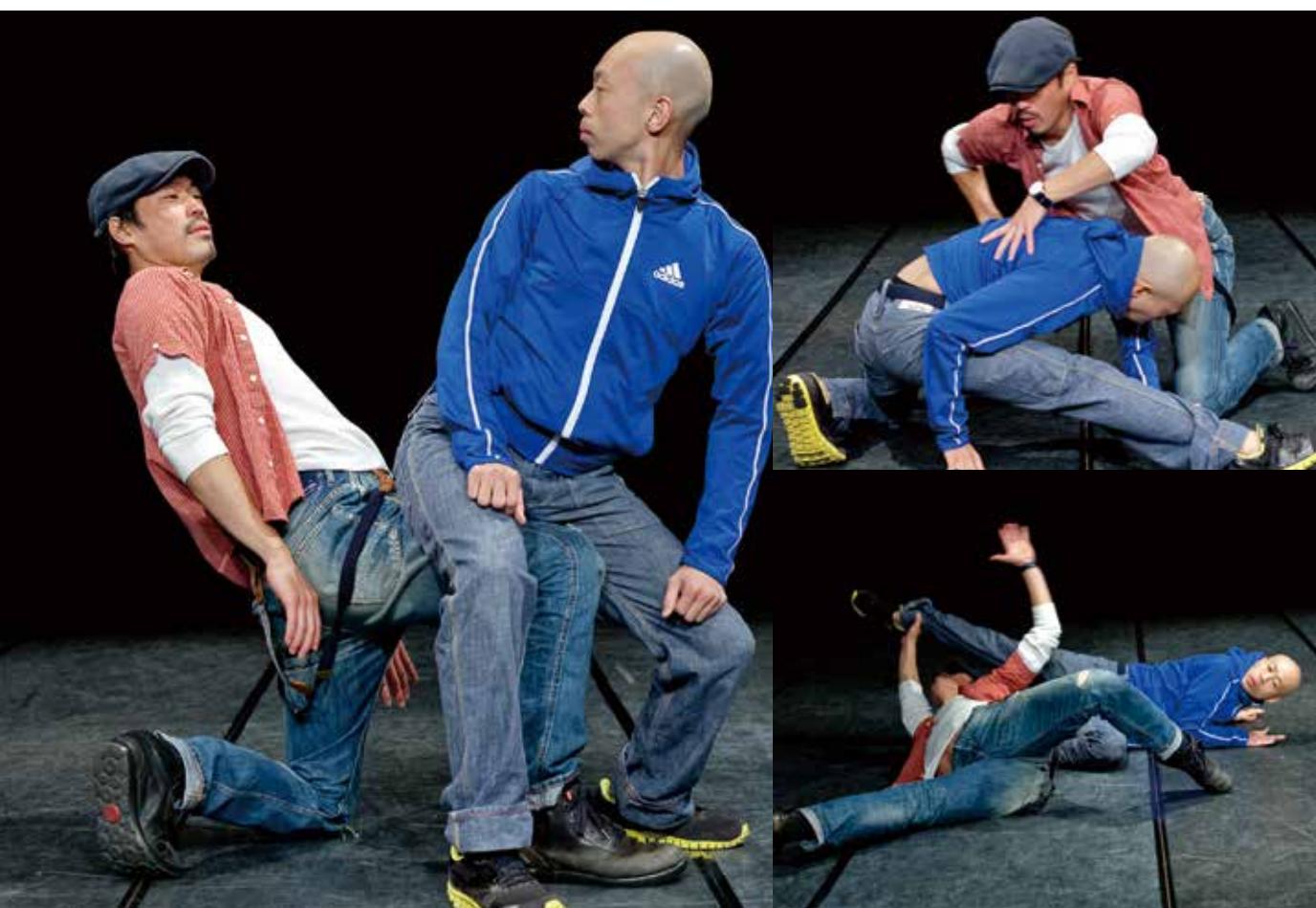
やっぱりコント、のように見せ方を変化させたい。カッコイイ踊りで、照明が変わると案外マヌケ、そういうのも好きです。

観る

変化し続けていて混沌としている領域だからこそ「コンテンポラリー（同時代的）」と呼ばれます。馬鹿馬鹿しいもの、ダンスに見えないものもある。それを「意味がわからない」と切り捨てずに、「何を表現しているように見えるか」、想像を膨らませて感じて、そのことを楽しんでほしい。わかりやすいものだけが良いものではないと思います。

残念ながら日本は、舞台芸術を取り巻く環境が西欧ほど整っていない。ダンスを観る文化が成熟するには、長い時間が必要です。でも、それを嘆いても仕方がない。僕は、僕なりの精一杯の活動をして、目の前の観客とその瞬間を会話するしかない。それでも、海を埋め立てて作る「ダンス文化」という陸地の、砂粒ではなくテトラポットぐらいではありますね。

特集 コンテンポラリーダンス



コンテンポラリーダンス 公演情報

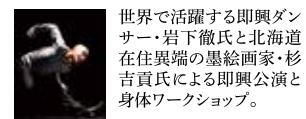
コンドルズ日本縦断超時空ツアー2013 「TIME IS ON MY SIDE」 北海道美幌スペシャル公演

【北海道文化財団アートシアター鑑賞事業】



日時:平成25年12月12日(木)
18:30開演(18:00開場)
会場:美幌町民会館「びほーる」
(美幌町字東2条北4丁目9番地)
料金:前売:当日2,500円
問い合わせ:美幌町民会館
☎0152-73-4187

岩下徹ダンス公演 & ワークショップ



世界で活躍する即興ダンサー・岩下徹氏と北海道在住異端の墨絵画家・杉吉貢氏による即興公演と身体ワークショップ。

写真:清水俊洋

岩下徹(ダンス) × 杉吉貢(墨絵)
即興コラボレーション

日時:平成25年12月13日(金)
19:30開演(19:00開場)
会場:生活支援型文化施設コンカリーニョ
(札幌市西区八軒1条西1丁目
ザ・タワープレイス1F)
料金:前売3,500円 当日4,000円
※未就学児童入場不可

岩下徹ワークショップ

【北海道文化財団アドバイザー派遣事業】

○ ナイトワークショップ
日時:平成25年12月12日(木)19:30
会場:生活支援型文化施設コンカリーニョ
※12月14日~15日に開催する2Daysワーク
ショップは定員に達したため締め切りました。
問い合わせ:NPO法人コンカリーニョ
☎011-615-4859

JCDN「踊りに行くぜ!!」Ⅱ vol.4 札幌公演

隅地茉歩氏(セレノグラフィカ)振付による札幌在住ダンサーの公演他。

〈途中経過発表&ダンスディスカッション〉
日時:平成25年12月20日(金)
19:30~21:30
会場:生活支援型文化施設コンカリーニョ
料金:無料(要予約)

〔公演〕
日時:平成26年1月10日(金)
19:30開演(19:00開場)
作品(順不同):

森田淑子作品「ヤマナイ、ミニナリ」
隅地茉歩作品「Avec アヴェクとともに」
村山華子作品「カレイなる家族の食卓」
(2010 Vol.1より)

東海林靖志ソロ「アフタートーク」

会場:生活支援型文化施設コンカリーニョ
料金:一般 前売2,500円 当日3,000円
学生 前売1,500円 当日2,000円
問い合わせ:NPO法人コンカリーニョ
☎011-615-4859



柳本 雅寛(やなぎもとまさひろ)
振付家・ダンサー

1976年大阪生まれ。1998年までクラシックバレエを踊る。1998年ドイツに渡り、ニーダーザクセン州立ブラウンシュヴァイクにソリストとして入団したのを皮切りに、ミュンヘンダンシングスター、スカビーノバレエロッテルダム、コニー・ヤンセンダンス、ガリダンスと、ドイツ・オランダの舞踊団に所属し、西欧を中心に世界各地で踊る。2006年に帰国後、大植真太郎、平原慎太郎らと「C/Ompany」結成。埼玉、東京、横浜、オランダ、スウェーデンで公演。2007年以降は毎年新国立劇場で平山素子、上島雪夫、加賀谷香、C/Ompany等の作品に出演。2011年より盟友青木尚哉とユニット「+81」を結成、作品を発表。2013年、海外で活動する日本人ダンサーらと共にモナコを拠点としたJapon dance projectを始動。2014年には日本公演を予定。独自のコンタクトメソッドと演劇的な身体表現の融合で新世界を模索している。

北海道文化財団アートゼミ 2013 柳本雅寛ワークショップ



平成25年9月30日(月)~10月6日(日)の7日間、柳本雅寛さんを講師に迎え、参加者と共に作品を創作するワークショップを、札幌市西区にあるターミナルプラザごとにパトスで行いました。柳本さんのワークショップは昨年に続く2回目の実施であり、参加した道内ダンサー12名のうち8名は継続参加者でした。

ワークショップでは、最終日のショーアイング(発表)に向けて「動きをどう作っていくか・変化させていくか」を実践。柳本さんのメソッド「コンタクト」の動きにも触れつつ、多用な動きを試み、そぎ落として作品化していく過程を体験しました。「短い時間の中だが、自分は何をいいと思うか、どうしたいかを積極的に伝え、互いに関わりながら創作していくことを体验してほしかった」と柳本さん。参加者は柳本さんの動きや創作姿勢を間近に観て、考えながら動きをブランチアップし、ショーアイングに臨みました。



東海林 靖志(しょうじ やすし)
振付家・ダンサー

1982年札幌生まれ・在住。HIPHOPに衝撃を受け16歳から踊り始める。ストリートカルチャーから派生し深化させた独自の舞踊表現を追求。北海道を拠点に舞台やアートフェスティバル、美術展、映像作品にダンサーとして参加。2006年よりダンサー・平原慎太郎、写真家松村サキらと共に『瞬project』を結成し、公演活動を行う。これまでに平原慎太郎、島地保武、森山闇次、柳本雅寛、山田勇氣の振付作品に出演。Carmen Werner『瞬project スペイン・ボルトガルツアー』全公演に出演。2012年、コンテンポラリーダンスを主軸としたスタジオ『CONTE Dance & Bodyworks Center』を立ち上げ、札幌の新たなダンスシーンの拠点(交流・発信の場)として展開中。



Duo Traeumerei [デュオトロイメライ]

西原さんは東京都出身、山田さんは北広島市出身。共に東京音楽大学を卒業後、ドイツ留学を経験し、札幌でピアノ・デュオを結成しました。

現在は連弾(1台4手)をメインに活動。楽器の王様「ピアノ」を、20本の指で縦横無尽に演奏するスタイルで、有名なオーケストラ曲はもちろん、幅広いジャンルの編曲を含む名曲をレパートリーに持っています。「一人でも多くの方々が演奏に親しみ、音楽のもつ喜びや感動を味わっていただく」をモットーに、通常のホールコンサート以外にも、高齢者施設やカフェなどで、トークを交えたアットホームなコンサート活動を積極的に展開。普段なかなか音楽に接することのできない方々を、「トロイメライ」=「夢想」の世界へといざなうことを願って活動しています。



西原なつき(ピアノ) 山田陽子(ピアノ)



※写真(後)
濱田奈美(ファゴット) 大島さゆり(フルート) 岡本千里(オーボエ)
※写真(前)
山本郁実(クラリネット) 長岡碧(ホルン)

木管五重奏団 ウインドアンサンブル・ポロゴ

平成26年度

HAF アーティスト

若手アーティストに活躍の場を、
そして、地域に豊かな音楽文化を。

北海道文化財団では、
若手演奏家(HAFアーティスト)を地域に派遣し、
クラシック音楽の魅力を伝えるコンサートや
アウトリート活動を行っています。
平成25年9月に実施したオーディションで選ばれた、
平成26年度HAFアーティストとなる
3組の若手演奏家をご紹介します。



早坂佳子(声楽) 関葉月(ピアノ)

札幌市出身、北海道立札幌東高等学校卒業、
東京芸術大学音楽学部卒業の同級生コンビです。卒業後、関さんはハンガリー・ブダペストへ、早坂さんはドイツ・ベルリンへ留学。ドイツ・ツヴィッカウでのコンクールに参加した際、偶然にも道の真ん中で再会したことをきっかけに交流を再開しました。

札幌に帰国後、2005年第4回中田喜直記念コンクールにて早坂さんが金賞・内村直也賞、関さんは最優秀伴奏者賞を受賞。帰国記念コンサート、ジョイントコンサート、かでる2・7ロビーコンサート、北海道神宮頓宮クラシックコンサート、Myrteクラシックコンサート、レナムレコンサート、群馬県高崎市たまごコンサート、埼玉県熊谷市幼児向けクラシックコンサート、北広島市芸術文化ホールロビーコンサートなど、道内・関東を中心活動中です。

COTOHA [コトハ]

街歩きアート

ギャラリーや創造の空間となった街の記憶を残す建物たち

[十勝エリア]

廃校になった小学校や古い赤レンガ倉庫、古民家。これらをリノベーションし、アート展示や新たな創造の場として活用されている場所が、十勝エリアのあちこちにあります。アートに触れながら、地域の歴史やふるさとの愛情が感じられるスポットです。



十勝の農をアートで発信。

③十勝めむろ赤レンガ倉庫 (芽室町)

JR芽室駅前にある築94年の赤レンガ倉庫内で、十勝の「農」のシンボルである「ジャガイモ」のアートづくりが行われています。主催はNPO「十勝めむろ赤レンガ倉庫」。端材を骨格とした縦6×横10mの巨大なジャガイモ2体の内側は、「食」をテーマにした小作品のギャラリーとなります。農業や食の意義を発信するため、世界中から作品100万点を集め展示しようという、壮大な計画。2015年に予定されている一般公開が待たれます。

- 芽室町東3の1
- 問い合わせ/NPO「十勝めむろ赤レンガ倉庫」
代表 浅野修
(asano-osamu@mtd.biglobe.ne.jp)
<http://memuroredbrick.web.fc2.com/>



森の中で現代アートに出会う。

④十勝千年の森(清水町)

千年先を見据えて森を育て、未来へ引き継ごうと構想されたスケールの大きな施設。森には現代アート作家の作品が点在しており、自由に鑑賞可能(開拓農家の廃屋で公開しているオノ・ヨーコ作品の観覧のみ予約制)。広大な敷地内にはイギリスの庭園デザイナーが手がけたガーデンをはじめ、ヤギを飼育してチーズをつくる工房、カフェや売店などが揃っています。

- 清水町羽帶南10線
☎0156-63-3000
◎4月下旬~11月上旬
(※営業時間は季節によって変動あり)
◎冬季休業
◎入園料/有料(※季節によって変動あり)
<http://www.tmf.jp>



column

廃校が新たな創造の場に。

⑥象設計集団 十勝事務所 (音更町)

1995年に閉校した旧然別小学校。1998年からは、首都圏から移転した設計会社・象設計集団の事務所として利用されています。国内外で幅広く活躍し、数々の賞を受賞している象設計集団は、道内でも道立釧路芸術館、十勝エコロジーパークをはじめ多くの建物の設計を手がけています。旧小学校というスペースの広さは、建築模型を並べることに役立っているそうです。

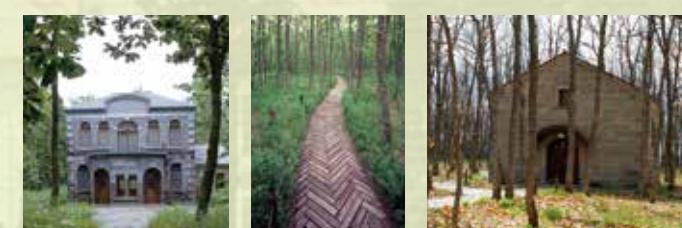
- 音更町然別北8西45
<http://www.zoz.co.jp>



柏林を歩いて美術館めぐり。

⑤中札内美術村(中札内村)

14ヘクタールにおよぶ緑の中に、美術館やレストランが点在する中札内美術村。1927年建築の銭湯「帯広湯」を移築した相原求一朗美術館、帯広市内にあった「三井金物店」の蔵を復元した夢想館など、古い建造物を作品展示のギャラリーに活用しています。柏の林に囲まれた気持ちのいい遊歩道は、旧広尾線に使われていた枕木を使用。長い時間を経てきた構造物が自然の中に溶け込み、アートな風景が創られています。



- 中札内村栄東5線
☎0155-68-3003
◎4月下旬~11月上旬(※営業時間は季節によって変動あり)
◎冬季休業
◎料金/入場は無料、相原求一朗美術館など一部の美術館のみ入館料がかかります。
<http://www.rokkatei.co.jp/facilities/index.html>

親子2代の画家の絵画を展示。

③画家の美術館 (芽室町)

旧中伏古小学校を利用した、今年で開館20年を迎えた私設美術館。木造校舎の教室や廊下、体育館などに、芽室町在住の村元美海(はるみ)とその父・村元俊郎(故人)、親子2代の油彩画約300点が展示されています。画家のアトリエとしても利用されているため、希望者は制作現場を見たり、画家本人から話を聞いたりすることも可能。入館は無料。事前に予約すれば有料で油絵体験なども楽しめます。

- 芽室町中伏古5線3号
☎0155-65-2306
◎9:00~17:00
◎定休日/月曜
(ただし月曜が祝日の場合は開館)
<http://gakabi.com>

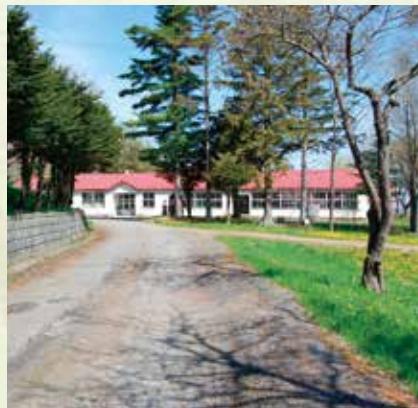


市民有志が守った古い建物群。

②北れんがギャラリー・古柏堂・古季庵(帯広市)

帯広の市民グループが、旧柏小学校の建物の一部と、隣接するレンガ倉庫や古民家を再生。旧校舎は多目的ホール「古柏堂」、倉庫は「北れんがギャラリー」として市民に開放され、コンサートや展示会、パーティーなどに利用できるレンタルスペースとして親しまれています。趣のある古民家は、しゃぶしゃぶや創作料理を楽しめる飲食店「古季庵いろいろ」として営業中です。

- 帯広市東2条南12丁目2-1
☎0155-25-3777(古季庵いろり)
◎11:30~14:30(ラストオーダー13:30)
17:30~22:00(ラストオーダー21:00)
◎定休日/日曜・第2月曜
<http://kokian.jp/>



懐かしい雰囲気の校舎でのんびり。

①とかるね(豊頃町)

旧統内小学校が、おしゃれな複合施設に。「十勝の宝をルネサンス(再生)したい」との思いから「とかるね」と名付けられました。講堂は、ギャラリーやイベントホール。音楽室は雑貨ショップ、工作室はアンティークショップ。そのほか愛犬を同伴できるカフェ(リード付で中型犬まで)やアロマテラピー・リフレクソロジーのサロン(完全予約制)もあります。お茶を飲んだりショッピングしたり、ゆったりとした時間を過ごせる場所です。

- 豊頃町統内1515 ☎0155-79-5440
◎10:00~17:00(カフェは11:00~17:00、ラストオーダー16:30)
◎定休日/火曜・第3月曜
<http://tokarune.com>



表紙作家の紹介



紅露 はるか 日本画家

Haruka Koro

1981年札幌市生まれ／札幌市在住
北の日本画展会員

※2011年までは「富樫はるか」名で活動

[主な個展]

- 2002年 aoiro(this is gallery)
- 2008年 富樫はるか個展(さいとうGallery／札幌)
- 2009年 すこし遠くまで(ラ・ガレリア ブチギャラリー／札幌)
- 2010年 富樫はるか個展 snow field
(ギャラリーおばあちゃん家／東京)
- 2012年 SNOW FIELD 紅露はるか個展
(ギャラリーHANA下北沢／東京)



[主なグループ展]

- 2006年 佐野妙子・富樫はるか二人展(4プラホール／札幌) ※以降2012年まで出品
- 2007年 第1回にかわえ展(札幌時計台ギャラリー／札幌) ※以降2011年まで出品
- 2008年 第23回北の日本画展(札幌時計台ギャラリー／札幌) ※以降2012年まで出品
- 2010年 A-TO 展(ギャラリーユニグラバス銀座館／東京)
- 2011年 日本の夏展(ルーファス・リン・ギャラリー／カナダ)
佐野妙子・富樫はるか二人展from Sapporo(gallery re:tail／東京)
- 2012年 NEW 日本画作品展-ノスタルジア-(新宿高島屋インテリアアートギャラリー／東京)
札幌美術展パラレルワールド冒險譚(札幌芸術の森美術館／札幌)
- 2013年 鼓動する日本画(網走市美術館／網走・モエレ沼公園ガラスのピラミッド／札幌)
岩見沢市絵画ホール／岩見沢・木田金次郎美術館／岩内)

◎北海道文化財団アートスペース企画展

紅露はるか展

会期:平成25年12月9日(月)～平成26年1月31日(金) 9:00～17:00

休館日:土・日・祝日 12月30日(月)～1月3日(金)

会場:北海道文化財団アートスペース(札幌市中央区大通西5丁目11 大五ビル3F)

入場料:無料



snow



明るい部屋

フォト・エッセイ②

文 いしいしんじ Shinji Ishii



みんな「北海道」をやつている

この夏、茅室南小学校で小説のワークショップをひらいた。までは僕が窓ガラスに、ストーブに告白してふられ、粉々に碎けた窓ガラスの話を書いてから、5年生、6年生の児童に、水で消せるクレヨンをくばつた。みな生き生きと身をくねらせて、床に「いつも気づいてもらえないわたし」の話、鏡に「ほんとうのわたしはだれ」の話などをラスに「いつも気づいてもらえないわたし」の話、鏡に「ほんとうのわたしはだれ」の話などを書いていった。クレヨンの字の連なりは、2階の廊下を両方向へのびていき、まるで雪解けの時期の滝のように、勢いをつけて階段を流れおちていった。

ワークショップのあと、子どもたちが作ったというスイカを口にして驚いた。スイカのジュースが辛うじて三角形をたもつてている、というくらい瑞々しく、濃厚に甘い。それたてのとうもろこしを頬張ったときも同じだった。舌

が舌本来のかたちを取り戻し、喜んでいるのがわかつた。小学生たちも作物も、ひとりが「北海道」をやつている。小さなからだのなかに、太陽とのワークショップをひらいた。また育つたひとならば、大人になろうがどこかしら、そういう星を浮かべ、はてしない大地を踏んで駆けていく。北海道で生みに、宇宙まで抜けていく青色の風を、すっぱりと頭にかぶつている。



いしいしんじ
(作家)

1966年大阪生まれ。京都大学文学部仏文学科卒。96年、短編集『とよいしいあるき』(『東京夜話』に改題)を刊行。2000年、初の長編小説『ぶらんこ乗り』を出版。03年、『麦ふみクーツェ』で第18回坪田譲治文学賞受賞。以降も『プラネタリウムのふなご』『ボーラの話』『みずうみ』『四とそれ以上の国』など話題作を発表している。2012年、『ある一日』で織田作之助賞受賞。お酒好き。魚好き。蓄音機好き。現在、京都に在住。

財団事業インフォメーション（平成25年12月～平成26年1月）

平成26年度 北海道文化財団 共催・助成・主催事業募集

■募集対象事業

○共催事業

まちの文化創造事業
(シアタープログラム・ギャラリープログラム)

アートシアター鑑賞事業

(道内・道外アーティストプログラム)

○助成事業

文化交流事業(発信交流・招へい交流)

○主催事業

アドバイザー派遣事業

舞台創造支援事業

若手芸術家発表事業

文化の宅配便事業

アート体感教室事業

■募集期間

平成25年11月下旬～平成26年1月28日(火)

■募集要項・申込方法

詳細は当財団のホームページ(<http://haf.jp>)にて、11月下旬にご案内いたします。

■問い合わせ

公益財団法人北海道文化財団 ☎011-272-0501

文化交流事業（主催事業）

北海道文化財団と韓国・光州文化財団による交流協定事業。

韓国光州広域市の美術家8名を招へいし、グループ展を開催します。



会期：平成25年12月10日(火)～12月24日(火)

会場：CAI02

(札幌市中央区大通西5丁目8 昭和ビル地下2F)

入場料：無料

問い合わせ：公益財団法人北海道文化財団

☎011-272-0501

北海道舞台塾事業

●シアターラボ別 札幌公演 「シング・シング・シング」

ドラマドクター・東憲司氏（劇団座敷童子）の2年間にわたる指導のもと、アマチュアが書き下ろした作品。さびれた商店街で町おこしに奔走する若者たちの葛藤と、ささやかな夢を描きます。



日時：平成25年12月22日(日)

14:00開演(13:30開場)

会場：生活支援型文化施設コンカリニヨ

(札幌市西区八軒1条西1丁目 ザ・タワー・プレイス1F)

入場料：前売1,000円 当日1,500円

問い合わせ：あさひサンライズホール ☎0165-28-3146

●北の元気舞台

帯広児童劇団 ミュージカル「グリーン」

昭和63年に発足した児童劇団。繰り返す森の再生や破壊する人間に焦点を当て、人間の存在にメッセージを込めた寓話劇上演します。



日時：平成25年12月22日(日)

14:00開演(13:30開場)

会場：かでる2・7 かでるホール

(札幌市中央区北2条西7丁目)

入場料：前売1,000円 当日1,200円

問い合わせ：帯広市児童会館 ☎0155-24-2434